

ΚΟΣΜΟΣ

コスモス No.97 1992 春

特集

新入生へのメッセージ



特集

新入生へのメッセージ

春です。新しい仲間たちが大勢はってきます。

91年度「コンビニエンスシリーズ」の最終回は、在学生からの熱きメッセージ。

さあ、新学期も頑張っってゆこう!!

未知の分野への 楽しい挑戦

弓場 章郎

図書館は大学の施設の中で最も有用なもの。勉強もできる・知的好奇心を満たすこともできる・映画も観られるといった具合に、うまく利用すれば、大学生活を加速度的に有意義にしてくれる存在だと思います。

レポート作成や試験勉強のために、たくさんの中から自分の気に入った資料を選んで利用できるほか、共同研究室を利用して、クラスメートと勉強会を開いてじっくり議論することもできます。レファレンスもしっかりしているので、欲しい情報をのがすこともありません。

私は法学部のせいもあり、専門雑誌のバックナンバーを書庫から出してもらおうとよくあるのですが、職員の方が親切なので、手に入りにくい資料も迅速に閲覧できるのは、なによりありがたいことだと感じています。

また、雑誌もたくさんあるので、興味あるタイトルを見つけたら読むのも楽しいと思

います。私はAERAとキネマ旬報を毎号読ませてもらっています。

もやもやした日には、AVライブラリーを利用して「ダイハード2」を観れば、ばっちりです。他にもチャップリンの映画や、トーキング・ヘッドのライブ「ストップ・メイキング・センス」もあります。

最後に私がお勧めしたい図書館の利用法は、専門分野以外の本をみて歩くことです。私は歴史や哲学、数学や物理が好きになりました。専門分野だけにとらわれない広い視野を養成するのに、学生時代は最適だと思います。文科系の学生は理数系が全くダメという人が多いと思いますが、一度数学や物理の本を読んでみて下さい。自分が今まで使っていなかった頭の部分が機能する楽しさが味わえます。

図書館を有効に利用して、楽しく・有意義なキャンパス・ライフを過ごしましょう。

(法学部 ゆみば・あきお)

《表紙の絵》

4月といえば、桜のイメージ
希望に満ちあふれた季節、さあ、君も僕も目標に向かってスタートしよう

(機械工学科 渋谷 健君の作)

頼れる図書館

福地 麻子

入学してから研究会や授業で何度か研究発表をする機会を持ちました。講義形式の授業と違い研究発表においては、発表者が主体的な目的意識を持つことと図書館を十分に活用することが不可欠です。ある発表で九州の大学が所蔵する十九世紀の洋文献がどうしても必要だったのですが、直接借りに行くわけにもいかず困ったことがあります。図書館のレファレンス・サービスの方に相談したところ、コピーなら郵送してもらえるとのこと、早速お願いしました。職員の方はこちらが熱意を持って具体的な質問をすればいつでも適確な助言をして下さいます。以来安易に職員の方を頼る悪い癖がついてしまいました。大学図書館は学生が利用すればするほど、質的に充実するものだと思います。新入生の皆さん、これからの四年間、大いに図書館を活用して下さい。(文学部 ふくち・あさこ)

私の図書館利用法

M. K

とは申しまして、そんな大層なものじゃありません。行きたいときに行く、ただそれだけであります。

例えば授業の空き時間に新書をじっくり読むもよし、大型本の美術全集をばらばらとめくってみるもよし、ゼミレポートの資料をあ

さるもよし、はたまた軽読書コーナーの旅行ガイドブックで空想旅行を楽しんでみるのも一興。ここには他にも思いがけない本があったりするので、一度のぞいてみて下さい。

それだけじゃありません。3階の視聴覚室に行けばCDやレーザーディスクなどがたくさん揃っていて、見逃した名画が観られたりするし、隣のホールでは日替わりで上映会をやっています。スケジュールは中央掲示板で。

また、ふと疑問に思ったことなんかを調べたいがどうやって探したらいいかわからない、なんていうときは、職員の方に訊ねると、丁寧に教えてくれますよ。

ざっと挙げてみましたが、まだまだよく見るといふようなものがある。(例：自由文庫、専任教員コーナー著作、CD-ROM、返却ボックス、……)ここではとても紹介しきれそうもないので、あなたが見つけてください。そしてあなたなりに図書館と「遊んで」ください。

(社会学部 M・K)

反論 = 大学図書館不必要論

小邨 隆久

先日、某雑誌にて大学図書館不必要論なるものを読み、本が使用される事無く、死蔵されていると云う記述を見ました。勿論、そんな事実は無い訳ですが、図書館の機能を、もっと知っていれば、今迄以上に得をする事も多いと思います。例えば、普段は入りづらい閉架への入り方とか、解らぬ時に、何でも相談出来る参考係とか。挙げればきりがありません。利用出来るものは、大いに活用し、充実したキャンパスライフを送りましょう。

(文学部 こむら・たかひさ)

『まず一冊』

鈴木 美弥

慣れない場所は、とかく威圧感を感じる。四角張った図書館に、用もなくフラッと入りにくい。高校時代、受験勉強の場所だけ借りていたとは少し違う。大学に入った以上、いやでも一度は調べものの必要が出て来るだろう。その時がチャンス。一冊の本から次々と別の本をたぐり寄せ、自分の得たい情報を得る。一度覚えるとこれは結構面白い作業だ。図書館に眠る何万冊の本も、読み手に会えて初めて生きるのだから。まずは君の一冊。

(文学研究科 すずき・みや)

『必需品』

渡辺 理和

御入学おめでとうございます。大学生活はまさに図書館と二人三脚。試験の時も、レポートや卒論を書く時も、そして授業の空き時間も図書館を利用。いわば「必需品」です。

図書館を上手に利用するためには、何よりも「慣れる」ことです。どこにどんな本があるのか、どんな雑誌がおいてあるのか等々、書庫にもどンドン入って「見て」ください。そしてわからないことは何でも聞いて、図書館を上手に利用して下さい。

(文学部 わたなべ・りわ)

体験レポート 鶴ヶ島の館

瀬谷 史朗

新しく東洋大に生息される皆さん、おめでとうございます。早速、工学部が誇るとってもオシャレでドレッシーな図書館『工学部分館』の利用法を教えませう。あなたならどう使いますか。“勉強”ですか、凄いなあ。何やて?女の子うおっちんぐ”?…東京湾にカワセミっているんですかね。もっともカワセミちゃんはいらっしゃいまして、カッコイイカラスがゾロゾロくっついていきます。

誰でもする使い方したって面白くない。そこでお薦めするのが『長期休暇中の開館日』に行くことです。お弁当持って目的は持たずに。巷の館じゃゴロツキ浪人が席取バトルやらかしているのに、ここは静かで快適温度。行かない手はありません。それでは体験レポートの始まりー。

着くなり、“科学総説：福井謙一とフロンティア理論”を開く。サッパリ分らん。三分後に一時間寝る。

次に“人間のタイプ(C. G. ユング)”を読む。「内向的思考タイプ」…何だ、俺の事か。

もうお昼。木陰で青空を仰ぎながらお弁当にカブリつく。何つったって鶴ヶ島の空気はうまい!!

何と、新書・文庫本が沢山あるんじゃない。“思い出トランプ(向田邦子)”に思わず引き込まれる。なんでも醤油かけて食う人に向田さんの良さが分かるのかな。

お昼寝。外ではカッコウが「カッコー」と鳴き、館内では閑古鳥が「カンコー」と微かに啼いている。

閉館のアナウンスでトトロと戯れながら帰る。

ラケット振り回したり、足に板くっつけて斜面から落ちたり、バイトしまくるのに疲れたらこのようなゆっくりとした時間に身を委ねてみるのも良いかと思いますがいかがでしょうか。文系の方にも鶴ヶ島はお薦めですよ。
(工学部 せや・ふみあき)

文献探索法と AV室利用

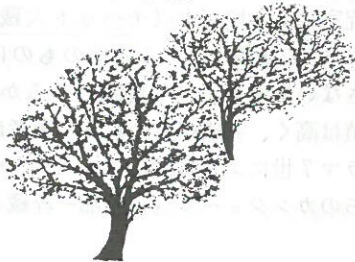
羽金 盛晴

私は図書館を、主に文献を探すために使っています。国内外の研究機関がどのような研究をし、成果を上げているのかを知ることは研究を進めていく上で、これから自分達がどのような研究をしたらよいのか、どのような方法を用いたらよいのか等について考える手助けとなります。

そのため科学文献速報により、自分の研究に関連した文献がどの雑誌に載っているのかを調べます。次に求める雑誌を見つけ出し、必要な部分をコピーするのです。

また、図書館には別室としてビデオやCD等が借りられるAV室があります。ここにはデッキも置いてあるので、研究の合間に気分転換のためビデオを観ることやCDにより音楽を聴くこともできます。是非、一度は利用してみよう。

(工学研究科 はがね・もりはる)



文学青年より

藤嶋 基

1～3年生：レポートを書く、雑誌を読む、昼寝をする。ほとんどこの3項目のどれかが該当し特に3番目が多い、他の学生も同様であると思われる。

4年生～大学院：とりあえず自分の研究テーマに関して調べ始め、1階にある書庫にもたまに行くようになる。だが、書庫においても洋雑誌を読むほどの語学力がないために和文雑誌に目がいってしまう。

現在：蔵書数が少ないため置いてある文献だけさっさとコピーし研究室に戻る。また、実験が進まないときの気分転換場か暇潰し(一般的な雑誌を読むこと)の場所になっている。

このように大学に長く在籍しているからといって図書館の利用に関してたいして知っているわけでもなく、むしろ学部生の方が私よりも知っているのではないだろうか。最初は私みたいな使い方でも構いません(こんなことを書くとは怒られそうだが...)。それから皆さん次第です。工学部の学生は他の分野に関して、特に文学的なことは大学4年間しか読む機会がないと言っても過言ではありません。これを機に文学青年になってはいかがでしょうか。

(工学研究科 ふじしま・もとい)



蔵書探訪9

本学所蔵の仏教聖典叢書

森 章司 里道 徳雄

中国や日本では、仏教聖典の叢書をふつう「大蔵経」や「一切経」と呼ぶ。ただしその所収範囲については、いわゆる小乗仏教の聖典だけを納めるもの（第1類）、大乘仏教の聖典をも含むもの（第2類）、中国日本で書かれたものまで集めたもの（第3類）など様々である。そしてこの上にそれが記されている言語を冠して、パーリ大蔵経（第1類）とかチベット大蔵経（第2類）、漢訳一切経（中国では第2類、日本では第3類。中国では中国撰述の聖典叢書を統蔵経と呼ぶ）などと称している。ここでもこれに従って、本学所蔵のものを中心に仏教の聖典叢書を紹介する。

パーリ大蔵経 パーリという語はほんらい「聖典」を意味するが、転じてスリランカやタイなどの南方仏教徒たちが用いている聖典の言葉を指すこととなった。伝説ではこれが釈尊の用いた言葉であるとされている。

このパーリ語による聖典はふるく紀元前1世紀に文字によって記録されたが、これが書物の形で刊行されたのは1881年にT. W. Rhys Davidsが設立したロンドンのパーリ聖典協会（Pali Text Society）の俗にPTS本と呼ばれている Pali text society text series (183 : B-4 : 6) というシリーズが最初であり、厳密な校訂が施されていることから最も広く利用されている。

その後東南アジアでも出版活動が盛んとなり、1894年にタイのチュラロンコン王の即位25年を記念して刊行されたタイ版大蔵経（整理中）は、タイ王室によって世界各国の大学や研究機関に寄贈された。本学印度哲学研究

室に所蔵するものもその一つである。更にインドのビハール州政府が1956年に、釈尊の入滅2500年を記念して校訂刊行されたインド文字による大蔵経（Nalanda Devanagari Pali Series）があり、これもその校訂に定評があるけれども、残念ながら本学には所蔵されていない。その他東南アジアの各国から、それぞれの国字で印刷されたパーリ聖典が出版されており、そのうち本学にはスリランカ政府により公刊されたスリランカ版（183 : B-4 : 14）とカンボジア版のマイクロフィッシュ（M183 : B-4 : 15）を所蔵する。

なお、パーリ聖典協会から刊行されている Translation Series (183 : P) はこれらパーリ聖典からの英訳であり、南伝大蔵経（183 : N）は日本語訳である。

チベット大蔵経 チベットに仏教が入ったのはソンツェンガンボ王（617～641在位）の時に、同時にインド文字にならったチベット文字も制定して、仏典の翻訳を始めた。しかしチベット大蔵経の刊行はまず中国に始まった。1410年には永楽版、1605年には万曆版が開版され、つづいて清の康熙帝の時（1684年）に康熙版が出版された（いずれも木版）。これが通例北京版西藏大蔵経（183 : C）と呼ばれるもので、西藏大蔵経研究会により影印出版されたため最も普及している。チベット本土においても1729年と1730年にデルゲ版とナルタン版が相次いで開版された。前者は東部チベットのサキャ派のデルゲ寺において発行され、本学はアメリカにおいて刊行されたその影印版（The Nyingma Edition of the sDe-dge bKa'-gyur and bsTan'-gyur (183 : B-4 : 3) と現在刊行されつつある東大印度哲学研究室による校訂本（チベット大蔵経、183 : C-4）を所蔵する。この他のものは校訂を施さない生のままの写真版であるから、その価値は高く、完成が待たれる。後者はダライ・ラマ7世によって開版されたもので、そのうちのカンジュール（仏説部一経蔵と律

蔵に相当)をマイクロフィッシュ (Narthatang Kanjur, M183 : B-4 : 4) で所蔵している。この他にもリタン版、チョネ版、ジェ・クンブム版、チャムド版、ラサ版などがあるが、前記三者がチベット大蔵経を代表する。

なおチベット大蔵経をもとに蒙古語大蔵経と満州語大蔵経が作られ、Sata-pitaka-series (183 : B-4 : 5) のなかの101-208巻に蒙古語のカンジュールが納められている。

ところが大乘仏教のほとんどの経典はサンスクリット語(梵語)で書かれたにもかかわらず、サンスクリット語大蔵経は存在しない。多くが散佚して現在まで伝わらないということと、インドにおいては大乘仏教の大蔵経は編集されなかったからである。(森)

漢訳大蔵経 中国が文字の国であるだけに多種多様である。紀元前後から翻訳され始めた経典は、6世紀半頃から一切経(北)・大蔵経(南)として、まとめられるようになる。それは、4世紀末の道安による『綜理衆経目録』以来、特に隋代に至って沢山の経録が成立し経典の整理が進んだことによる。煬帝は15蔵50万軸の写経による大蔵経を編んだといわれ、唐の玄宗皇帝は、智昇の『開元釈教録』に拠って、1076部5048巻の欽定一切経蔵を編んだ。これらの写本大蔵経が版木に彫られて刊行されるのは宋代からで、有名な蜀版大蔵経がそれである。以来、北宋の福州版と呼ばれる『東禪寺本』や『開元寺本』、南宋の『思溪版』が11世紀迄の間に次々と刊行された。宋版の影響は近隣諸国に及び、『契丹版』・『高麗版』・『金版』・『西夏版』など、又、『契丹版』を底本として『房山石経』などが成立している。さらに、元代となると、『普寧寺本』や『磧砂版』が完成し、明代には、勅版の『南蔵』・『北蔵』が編まれ、『南蔵』から方冊本の『嘉興蔵(万暦版)』が生まれる。清朝には『北蔵』を改訂して『竜蔵』が編まれる。

さて、これらの諸蔵を原本で架蔵すること

は、望むべくもないが、本学図書館では、『南蔵』中の数本を蔵し、他には近年、復刻されつつある諸蔵、例えば、『嘉興大蔵経』(183 : K-7) や、『高麗大蔵経』『磧砂大蔵経』(183 : E-3) 『金版』を中心とする『中華大蔵経』(収蔵予定)・『高麗大蔵経』(183 : K) 『房山雲居寺石経』(183 : C-5)などを蒐蔵している。又、江戸時代の鉄眼による『万暦版』正蔵の復刻本である『黄檗版一切経』(183 : O)なども架蔵している。さらに『敦煌宝蔵』(183 : KE)のような、写本大蔵経の姿を窺知し得るような写経本もあって、研究の便に供されている。

しかし、歴史的な、これら諸蔵経に対して、研究には、普通、『大正新修大蔵経』100巻(183 : T) が用いられる。それは、広範な蒐経と諸本の厳密な対校によって編まれているからであると同時に、明治13年の弘教書院版『縮冊蔵経』、『卍字蔵経』(183 : D-2)の編纂を踏まえて成立した叢書でもあったからである。本学図書館は勿論、印度哲学科研究室、東洋学研究所などで、旧版・新版・台湾本などを利用することが出来る。又、中国撰述書については『卍統蔵経』(183 : M-3)、日本撰述については『大日本仏教全書』(180 : 8 : D、180 : 8 : D : 2) 『日本大蔵経』(183 : N-2)などがあって、膨大な集成の姿をたどることが出来る。又、『国訳一切経』(183 : K-2) 『国訳大蔵経』(183 : K-3 : 3)などの国訳本もある。こうして、『大正新修大蔵経』と、その背景にある諸蔵の関係など、漢訳経典の研究がようやく可能となりつつある。勿論、『元版』や『北宋版』などの披見は、架蔵する専門図書館や寺院に依存せざるを得ないが、それらも、いずれは復刻されるであろう。本学図書館は、現在懸命に、古経諸本を蒐取中である。(里道)

(文学部教授 もり・しょうじ さとみち・のりお)

図書館 あ・ら・かると

★ 朝霞 見て見て聞いて ★

昨年9月に朝霞分館の入口にできたコーナー「自由文庫」。現在までに約1000冊の本が、学生や教職員から寄贈され、人気も上々です。又、本の売れ行き(?)も大変よく、「入館する時置いて行った本が帰りにはもうなかった!!」という経験をした方も多いでしょう。

いらなくなったテキスト・参考書、一度読んだきり眠っている文庫本等々なんでもOK、自由文庫に寄贈してください。

★ 工学部 見て見て聞いて ★

分館では、皆さんへお知らせしたいニュースがあります。まず1. 新学期より開館時間が早くなり9:00開室になります。(AV室は9:30から開室です。)その2. 「電子伝言板」ができました。利用者の皆さんへメッセージを流しますのでよ〜く見てくださいね。場所は、玄関入口コピー機の上です。壁面をご覧ください。3. 階段を昇り2F、閲覧室。な〜んと明るい/そです。照度UPの工事をしました。本の書名もハッキリ、お友達の顔もハッキリ、改めてハットしますよ。チョット、そこの背の高い君、オット、頭上の蛍光灯にぶつからぬ様に注意してね。4. 入口より4〜5歩、すぐ右側の壁面をご覧ください。「留学生コーナー」の見出しが目に入りましたか? 留学生の皆さんの為に設けました。是非、ご利用ください。又、わからないことがあったら、入口すぐわきのカウンターに遠慮せず聞いてください。5. 最後に図書館ツアー

のお知らせ。新入生の皆さんは勿論、在校生の皆さん、一度聞こうと思っても参加できなかった人、上手な利用方法、絶対知って得する◎情報等々、もりだくさんに用意しています。是非、この機会にご参加ください。日時は、4月20日(月)〜22日(水)12:30〜、カウンター前に集合してください。

★ 白山 見て見て聞いて ★

白山図書館では、ことしも4月下旬に『図書館ツアー』と題して、図書館の利用方法をはじめ、館内及び閉架書庫内の見学などを予定しています。どしどしご参加ください。5月中旬には、ガイダンス(資料の探し方)も予定しています。

また、学部第2部並びに短大の新入生、及び学部第1部の3年生対象のガイダンスを4月初旬に予定しています。特に学部3年生は、朝霞分館と利用方法が若干異なりますので、必ず聞いてください。

図書館の行事は、3ヶ月ごとに『図書館カレンダー』でお知らせしますので、どうぞご覧ください。そして最後に“図書館内ではマナーを守ってみんなが気持ちよく利用できるよう”心がけてください。

★編集後記★

まもなく新学期を迎えます。新入生の皆さんを歓迎する意味で、今回は諸先輩方からメッセージをいただきました。学園生活を有意義に送るヒントにしてください。

ご協力を!!

図書館では、4月以降も『機械化』準備作業が行われます。利用者の皆様には何かとご不便をおかけしますが、よろしくご協力をお願いします。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN **ΚΟΣΜΟΣ**

1992春(No.97)1992年3月31日発行 編集:コスモス編集委員会 発行人:山崎正巳 発行所:東洋大学
附属図書館 〒112 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel. 03(3945)7314 ©東洋大学附属図書館 1992